



児童・生徒が世界の難民・避難民のために不要になった子ども服を回収

2021.7

UNIQLO・GU

『“届けよう、服のチカラ” プロジェクト』に参加

多治見高校



多治見高校では、今年度1年生の授業「家庭基礎」、家庭クラブ委員の活動のひとつとして、ユニクロ・ジーユーの“届けよう、服のチカラ”プロジェクトに参加することにしました。このプロジェクトは、日本全国の小・中・高校で、児童・生徒が主体となって、着なくなった子ども服を回収する活動です。多治見高校では、本プロジェクト開始として6月29日(火)に、ファーストリテイリングの社員の方に講師となっていただき、武道場にて50分のオンライン授業を受けました。SDGs、服が持つチカラ、難民についてスライドで説明していただき、回収活動につながるきっかけを作っていただきました。今後は、総合的な探究の時間につなげながら、ポスター、チラシを作成するなど広報活動をして子ども服の回収を行いたいと思っています。また、この授業に関して、おりベネットワーク、岐阜新聞、東濃新報から取材を受けました。



【オンライン授業】

【生徒の感想】

僕は、今まで小さくなって着られなくなったものは、母のママ友つながりの子などにあげていました。しかし、それが自然と服のチカラを活かしていたのだと知り、驚きました。知らないうちに環境保全に貢献できて嬉しかったです。まだまだ貢献できることはありそうだと思います。お古としてあげられないものは、雑巾にしたり、リサイクルに出したり...などなどあるなと思いました。すごく充実した時間になりました。今回は、ユニクロ、GUさんを通じて難民の子どもたちに服を提供するけど、いつか自分の手で渡しに行ってみたいです。服を着ることは、当たり前だと思っていたけど、難民の人からしたら、服を着ることは“贅沢”なんだと身に染みて感じました。常識を疑うことは大切だとしりました。資源回収などのボランティア活動にも積極的に参加したいです。今日の授業を受けて、自分にもできること、やりたいことを見つけることができました。ありがとうございました。